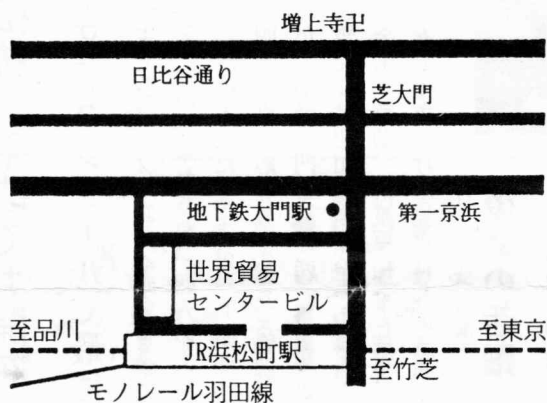


在京白聖会 総会のご案内

会場案内図



貿易センタービル浜松町東京會館 (38階ふじの間)

TEL (3435) 2611(代)

FAX (3435) 2606

東京都港区浜松町2丁目4番1号 世界貿易センタービル内

JR浜松町駅南口隣接・地下鉄都営浅草線大門駅より徒歩3分

五月十三日、貿易センターで

日時 五月十三日(水) 午後六時
場所 左記
会費 一万円(年会費を含む)

在京白聖會報

第4号

平成10年3月30日

発行 在京白聖会

東京都港区虎ノ門一丁目十六番八号

飯島ビル202号

星野健秀法律事務所内

TEL 03 (3506) 8844

FAX 03 (3503) 7854

第二十九回の総会を、今年も母校の創立記念日に当る五月十三日(水)に開催いたします。

今年は、年度幹事のご努力により東京會館の広い会場で開催することになりました。松橋常任幹事(東郷神社宮司)のご配慮により、長年にわたり提供していただいた東郷會館の会場が、出席者が多数となつて手狭になつたため、今年から広い場所に変更することにしたものです。

ご出席下さる方、住所・電話番号・勤務先等の変更のある方は、同封の葉書でお知らせ下さい。欠席の方は、お手数でも同封の振込用紙で年会費二千元をお振込み下さるよう、お願い申し上げます。出席者及び年会費納入者には、新しい会員名簿(約四千人掲載)を配布することになっています。

在京白聖会会長 及川昭伍

中



今回は、会場を昨年までの東郷記念館から東京世界貿易センタービル38階東京會館スカイホールに移しました。これによって参加者全員が一同に揃つて懇談できることとなりました。

また、ことは、時節柄派手な運営は慎むこととしながらも、年代間の交流が図られ、ふるさととの結びつきが強くなるような企画を考えております。例えば、当日母校では恒例の大運動会が開かれています、その模様の紹介や、やはり盛岡で開かれていた白聖会会場を結んでの同時中継などデジタル時代に沿った出し物も準備中であり、どうぞ期待をいただきましたと思います。

多くの同窓生のご参加をお待ちしています。どうぞおいでやんせ。

(昭和41年卒 幹事一同)

文芸白聖の伝統、平成でも開花！

高校生文芸コンクールで最優秀賞二人

昨年の第12回全国高校生文芸コンクール（全国高等学校文化連盟・読売新聞社主催）で、わが白聖の後輩たちが、個人の大臣奨励賞を、独占するという快挙を成し遂げました。

全国から二万五千八百四十六点の応募の中から、盛岡一高三年の遅澤さんと二年の長谷川さんが、小説部門と詩部門の最優秀賞に選ばれました。なお、主催の文化連盟会長は昭和32年卒の小山卓也さん。

石川啄木、宮沢賢治、金田一京助、新渡戸稲造と続く「文芸白聖」の伝統は、平成の世でも脈々と生き続け、見事に花開きました。



左から、遅澤さん、小山会長
長谷川さん（表彰式会場）

後輩の活躍を喜ぶ

小田島雅也（昭28年卒）

初冬の朝、幼馴染みの弾んだ声が受話器にひびいた。「読売新聞の高校文芸コンクールで貴方の後輩である盛岡一高の生徒が二人も最優秀賞を受賞している記事が出ている。もし見ていなかったのならコピーを送る」という電話。数日後、「何年経っても故郷のことは気になるものですね」という添書と共に新聞のコピーが送られてきた。

全国高等学校文芸コンクール「小説」部門で遅澤可奈子さんの

「華炎」、「詩」部門で長谷川瑞穂さんの「花の定義」が共に文部大臣賞に輝いていた。学校単位の「文芸部誌」を除く個人の四部門のうち、二つの部門で同一高校の生徒の受賞である。

卒業生の一人としてはこの後輩の活躍に、母校の部活の実力を再認識させられた。華やかに取り上げられるスポーツ部門と違い、地味な活動が続ける文化部の栄光だけに、単に進学校としての存在だけにとどまらず、充実した課外活動を続け努力する姿に、「忠實自彊の旗高く、文武の海に彌る日の……」という校歌の精神を具現化された思いを強く感じたのである。

とかく偏差値教育や〇×式試験が大手を振って罷り通る現代において、言葉文化を創造する作品の評価は、母校の存在感を改めて世に問うことになったのではないだろうか。

「作品が全国から応募されたのに、入選は南北遠隔地の高校生の作品に多かった。これは文化の発信とは何だろう。文化の土壌とは。都市型受験教育とは何か？を考えさせるものとなった」と挨拶され

た全国高校文化連盟の小山会長のことばの中に、高校教育の問題点が潜んでいるのでは。教育の原点は知識の習得はもちろん、最も大事なこととは人間の形成にあるのではないだろうか。

なお、会長の小山卓也君は、わが盛岡一高の昭和32年卒業生で、ハンドボール部の後輩である。在学中はインターハイや国体で活躍し、教員となってからは一高勤務中の昭和53年、甲子園に出場した野球部の部長を勤めた。先日電話では「私自身、審査結果を知らされた時に後輩たちの入選にびっくりし、晴れがましい気持がした」と喜んでくれた。

新聞紙上に大きのつた盛岡一高の活字に心躍るひとときであった。願わくばこれからも精進を重ねて、いつの日か中央文壇に登場し活字を通じて読者に感動を与えてくれることを希望する。

とかく暗いニュースの多かった97年ではあったが新年を迎えるに当たって、このような明るい話題で紙面を飾ってくれたことに感謝するとともに、21世紀に向っての確かな歩みを感じた。

花の定義

長谷川瑞穂（盛岡一高二年）

皮を破れ。

土を押し上げろ。

地上に二枚の翼を広げて、

その身に降り注ぐ

光の粒を一滴も逃すな。

意識を上の上に、

空を抱きしめ、

伸びてゆけ。

命の宮に宿った

「生」に

流れる風を吹き込め。

花。

植物の体から

無意識に溢れ出た

一瞬の生の姿。

人は誰でも

それを

美しいと言う。

ああ、それならば、

白けた無気力、

早すぎる諦めを

格好いいとは言うな。

美しさの追求など

やめてしまえ。

生の力に正直に、

時には、

笑われるほど、

ばかになれ。

華炎

遅澤可奈子（盛岡一高三年）



今こそ、

皮を破れ。土を押し上げろ。

地上に二枚の翼を広げて。

その体から

溢れ出る

永遠の生の姿。

未来を夢見る

たくましく本能。

花。

久安元年。鳥羽上皇の皇后であ

り、また近衛天皇の生母として院

号を受けた美福門院・藤原得子は

いつものように院御所で我が子・

體仁の手習いを見ていた。

體仁の筆を持ってしているか細い手

首がぶるぶると震えている。その

震えから、紙面の上に黒い墨が

散った。

「宮、落ち着き遊ばして」

美福門院が内心の失望を巧みに

押し隠しながら気遣うと、體仁が

取り繕うような気弱げな笑みを浮

かべた。

我が子ながら、何たる気弱さか。

そう思う反面、手首の震えを必死

に制しながら筆を滑らせる我が子

を見て、やはりこの子は自分が支

えてあげなければならぬとしみ

じみと思う。

何と言っても體仁は近衛天皇と

して即位しているとはいえ、まだ

弱冠五歳の子供だ。しかも親の目

から見ても利発な子だとは言えな

い。と、なれば、骨身を削る権力

闘争でこの子が打ち勝つためには、

自分が側に付いている他ないでは

ないか。



おまけに、美福門院にとって、體仁の教育は是非とも自分がやらなければならぬ理由がもう一つあった。

自分の言うことを素直に聞く、

従順な息子に育て上げなければ……

美福門院はそう心に決めていた。

そのため、当然體仁に付けない

ければならない乳母も自分の腹心の

女房にやらせ、且つなるべく自分

も付き添っているように努めた。

他人の乳母などに教育を任せて

いては、成長した後、自分の言う

ことを聞かない天皇となってしまう。

そしてあの憎たらしい女の息子

子である體仁の子供に帝位を戻す

と言いつつもしれない。

もしもそんなことになったら、

せっかく白河院の崩御を待って手

に入れた體仁の帝位と宮中における

権限が無駄になってしまう。

そして何よりも、あの女の血縁

の手に天下が集まってしまうのでは

ないか……。それだけは、絶対に

阻止しなければ。

美福門院ははらりと自分の檯扇

を開き、危うく噛み締めてしまっ

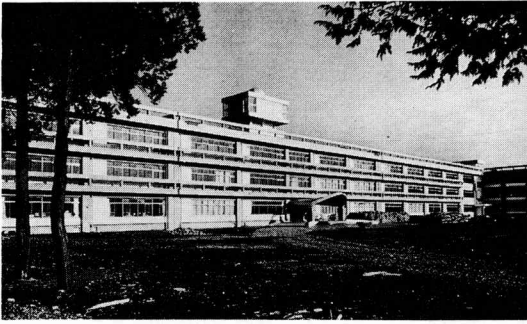
た口元を隠した。（以下 略）

母校の新築決まる

在京白聖会会長

平成十年度の岩手県予算案が確定し、母校の盛岡一高は、現在の敷地内の南側に校舎を新築することになりました。

校舎敷地が狭いため、県立高校で最初のエレベーター付きの五階建てとし、三五〇席の階段式大教室を設けるほか、北側に岩手山を望むバルコニーを設けることにしています。校舎の西側に体育館を



40年目を迎える現在の白聖校

及川昭伍



新設、二階にプール、三階にアリーナを設け、校舎の三階と廊下でつながります。

「白聖」のイメージから、外壁は白を基調にします。校舎、体育館、プールの高層化で、運動場は、現在より約二五％広くなります。

平成十年度、平成十一年度の二カ年で完成し、十二年の創立百二十年は、新校舎で迎えることになります。

岩手県人の集い

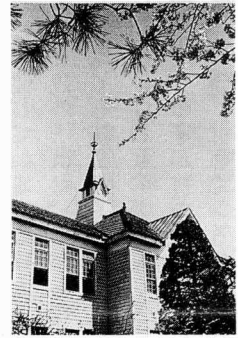
今年も岩手県人会が下記のとおり開かれます。在京白聖会も参加団体です。みなさまお誘い合わせの上、ご出席下さい。

記

- ◎日時 5月10日(日) 受付開始 AM10:00
- ◎会場 京王プラザホテル5F エミネンスホール
東京都新宿区西新宿2-2-1
☎03-3344-0111(代表)
- ◎参加費 8,000円 ご家族2人の場合15,000円



盛岡の街をねり歩くチャグチャグ馬っこ



(エトキ) 第2代目の白聖校

ります。

岩手県知事が先日上京された節に、正式決定した旨のお話がありましたので、在京白聖会を代表してお礼を申し上げておきました。

新春の盛岡。あまりにも空が美しかったので、「盛岡三撰」を考えてみました。

盛岡三山〓岩手山、早池峰山、姫神山。

盛岡三河〓北上川、中津川、雫石川。

盛岡三橋〓開運橋、中の橋、明治橋。

盛岡三湖〓高松池、岩洞湖、南部富士湖。

盛岡三樹〓石割桜、南部赤松、桐。

盛岡三祭〓チャグチャグ馬っこ、舟っこ流し、さんさ踊り。

盛岡三景〓白鳥、鮭、馬っこ。

盛岡三麵〓わんこそば、冷麵、ジャージャー麵。

盛岡三菓〓南部煎餅、豆銀糖、ごますり団子。

盛岡三偉人〓原敬、米内光政、新渡戸稲造。

盛岡三文人〓石川啄木、宮沢賢治、金田一京助。

盛岡三〓白〓〓白梅、白百合、白聖。

先輩のみなさま、もっとありましたら教えて下さい。(編集係)

青春白聖